



みんなで考えよう。
人が人らしく生きるために…



相手を尊重するということ

無意識な言葉の中に

- ① 日本語お上手ですね。
- ② 女性で管理職ってすごいですね。
- ③ 旦那さんは家事育児に積極的で良いですね。

これらは、日常会話でよく使われる言葉です。皆さまも、ご自分が会話の中で使ったことがあったり、使ったことがないにせよ、一度は似たような言葉を聞いたことがあったりするのではないでしょうか。

これらの言葉は一見、相手を褒めているように思えます。きつとこの言葉を投げかけた側にも、相手を傷つけようとする意図はないのでしょうか。

しかし、その実、ここに隠された偏見が存在しています。

まず一つ目の「日本語お上手ですね」ここには、見た目から「外国人であることを判断」し、そして、だから「日本語を話せない」という見方をし、そうであるとして、自分の中で決めつけたから、このような言葉を発したという過程が存在します。

二つ目については、もうお分かりだと思えます。ここには、「管理職には「男性」がなるもの」という思い込みがあります。三つ目についても同様です。相手のパートナーを褒めようとしたことは分かりますが、ここにも、「家事育児をするのは「女性」である」という思い込みがあるのです。（そもそもパートナーは異性だという思い込みもあるのかもしれない）

私も、教壇に立っていたころ、よく使ってしまったところ、よく使ってしまった言葉がありました。それは、「普通は○○だよ」という言葉です。この言葉にも、多数を正当であると決めつけ、相手をそうではないものであると決めつける無意識な偏見が含まれています。（私は幸いにも、その言葉を聞いた同僚からの指摘で気付くことができました）

これらは、マイクロアグレッション（小さな攻撃性）と言われています。1970年にアメリカの精神医学者であるチェスター・ピアス氏が提唱したもので、2000年にコロンビア大学教授のデラルド・ウィング・スー氏によって再定義され、対象が人種のみから、あらゆる社会的に疎外されているといわれている集団に拡大しました。

このマイクロアグレッションが難しいのは、前述の通り、発言をした本人が「自分は差別している」という意識がないことです。むしろ、「自分は差別はしないよ」と相手にメッセージを送ろうと考えている人にも、無意識であるからこそ起こってしまうことなのです。ですから、もし指摘されたとしても「相手が考えすぎだ」「その程度気にしなれば問題ない」という考えに至ってしまうことが多々あるのです。

また、悪意がない発言であるため、発言者を周りの人が庇ってしまう傾向もあるようです。これが問題の解決を一層難しくしています。

誰もが一人の人として尊重されるために

マイクロアグレッションと聞くと、「小さい」というイメージが浮かんでしまいます。しかし、マイクロアグレッションを受けた本人は、人生の中で同じ言葉を繰り返して聞くことになり、心に受けた傷は、決して小さくなく、健康を害してしまうという報告もあります。

私たちは、相手を傷つける側にも、傷つけられる側にもならないために、常に、自分の発する言葉が相手にとってどのような影響を与えるかを考えなくてはなりません。

また、物事を広い視野で考え、自分が知らず知らずのうちに多数派の立場からくる見方をしていないかを振り返らなくてはなりません。無意識に起こってしまうことであるからこそ、「自分は大丈夫」と思うのではなく、「自分にも起こりうることだ」という認識をもつことが大切です。そのような私たちの心がけが、誰もが一人の人として尊重される社会を創りあげるのであります。

私たちの「つながらり」も、相手を思いやる気持ちから生まれます。しかし、その温かい思いから生まれた言葉が相手を傷つけたとしたら、それは本当に悲しいことです。思いやりの心を相手にまっすぐに届けるためにも、ぜひ一度、立ち止まって考えていただけたらと思います。